

草加市立歴史民俗資料館

れきみんだより vol.8



草加松原団地の様子（昭和37年〔1962〕ころ）

草加 × 東洋一のマンモス団地展開催

会期：令和2年8月1日（土）～10月4日（日）

東武スカイツリーライン獨協大学前どつきょうだいがく 草加松原へいせい駅は、平成29年（2017）まで松原団地駅と呼ばれていました。駅名は、駅西口に建設された草加松原団地に由来します。324棟5,926戸という空前の規模は、昭和37年しょうわ（1962）の建設当時「東洋一のマンモス団地」と呼ばれました。

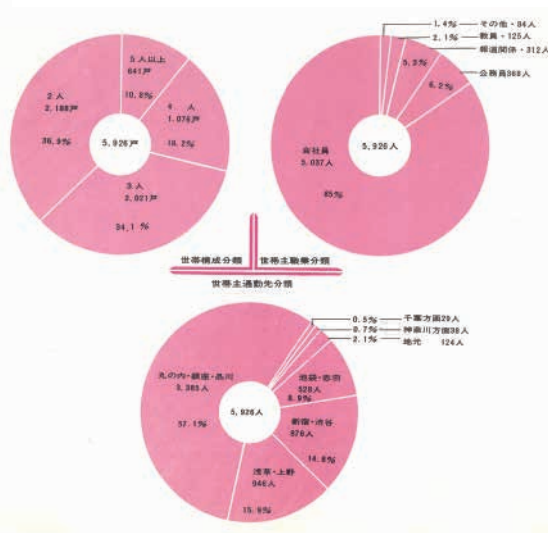
草加松原団地の建設は、松原団地駅の建設や獨協大学の誘致、児童の増加による小中学校の建設など、草加の発展に大きな影響を与えまし

た。建物の老朽化を受け、平成15年（2003）からは建替事業も始まり、現在も新しい街並みへと変わっていく最中にあります。

企画展では、松原団地に焦点をあて、昭和30年代後半から40年代の団地の暮らしを捉えています。

設計に関する資料や団地に住む人々が残した記録のほか、団地全体を俯瞰ふかんできる模型を展示するなど、見て楽しめる展示になりました。

ぜひご来館ください。



今回は、夏季企画展でも展示している草加松原団地（以下、「松原団地」といいます。）の案内パンフレットを紹介します。

松原団地の工事は、昭和36年（1961）3月から始まり、同39年（1964）12月末に終了しました。この間、昭和37年（1962）12月からは入居が始まりました。

表紙を飾る「平和母子像」は、松原団地の竣工を記念して、昭和39年に彫刻家の大和作内が製作したものです。建立から55年経ちますが、現在も変わらず地域のシンボルとして松原団地西口公園に立っています。

パンフレットは4つ折りになっており、開くと縦横36cm程度の大きさで、松原団地の概要や入居者に関する様々な情報が記載されています。

松原団地はA・B・C・Dの4地区に分かれ、合計5,926戸を有しましたが、間取りは2DKタイプが一番多く、2,208戸ありました。2DKタイプの家賃は7,700円～7,850円でしたが、当時の大卒国家公務員

の初任給が19,100円の時代にこのような団地に入居できることは人々のあこがれでした。

入居者に関する情報を見てみると、それぞれ一番多い割合は、世帯構成人数が2人（36.9%）、世帯主職業分類が会社員（85%）、世帯主通勤先分類ではほとんどが東京都への通勤（96.7%）、特に丸の内・銀座・品川への通勤（57.1%）が高くなっています。

また、世帯構成では単身者はおらず、家族向けの住宅であったことが分かります。草加市民が優先的に入居できる制度がなかったほか、昭和37年（1962）12月には地下鉄日比谷線の乗り入れが始まったこともあり、東京への通勤者の入居が多くなったと考えられます。

これらの情報が掲載されていることから、パンフレットは一斉募集が終わった昭和40年ごろに作成され、入居募集者向けではなく、行政や事業所向けの用途であったと考えられます。

完成間もない松原団地の実態がうかがえる貴重な資料といえます。

◆れきみん歳時記（令和2年2月～令和2年5月）◆
歴史民俗資料館で開催した講座やイベントなどの取組を紹介します

2月 華やかな桃の節句展



恒例の「桃の節句展」を開催しました。今年は展示レイアウトを工夫して、より華やかに見えるよう心掛けました。ご覧になった方々も大変喜んでいました。

4月 休館中だからこそ・・・



臨時休館中だからこそ、やっておきたい展示資料の更新。施設見学を再開したとき、休館前から少し変わった展示室をご披露できるよう職員も頑張りました。

3月 休館中のサクラ



新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、当館も臨時休館になりました。不安な日々の中でも、サクラはきれいに咲き誇り、道行く人もしばし足を止めてご覧になっていました。

5月 今年の「端午の節句展」は見送り



毎年恒例の「端午の節句展」ですが、今年は臨時休館中のため、開催することができませんでした。感染収束による再開を期待して準備を進めてきただけに、みなさんにお見せできず、大変残念です。

◆企画展の次回予告

タイトル：「森村桂展（仮称）」

開催期間：令和2年11月14日（土）～令和3年1月10日（日）

小説「天国にいちばん近い島」で知られる作家の森村桂は、
草加出身の作家・豊田三郎^{とよだ さぶろう}を父にもつことから、草加市でも
馴染み深い作家として知られています。企画展では、残され
た資料から森村桂の足跡を見ていきます。



森村桂による作品の一部

◆れきみん講座のお知らせ

歴史民俗資料館では、多くの方に草加地域の
古代から近代までの歴史を幅広く学んでいただく
「れきみん講座」を開催しています。

9月の企画展講座では、獨協大学の岡村教授を
迎え、松原団地をテーマにお話していただきます。

題名：「団地が育てたもの」

講師：岡村 圭子 氏

（獨協大学国際教養学部言語文化学科教授）

日時：令和2年9月20日（日）

午後2時～午後4時

定員：30人（申込先着順）

申込：9月6日（日）より電話にて受付

草加市立歴史民俗資料館
facebook やってます！！

皆さんに草加市の歴史や文化、歴史民俗資料館の活動を伝えたくて
公式フェイスブックページを開設しています。
様々な情報を発信していきますので、ぜひご覧ください！



草加市立歴史民俗資料館

市公式ホームページ内の SNS ページまたは隣の
QRコードからアクセスすることができます！

草加市立歴史民俗資料館

【開館時間】 午前9時～午後4時30分

【休館日】 月曜日（祝日または振替休日の場合は翌平日）
年末年始

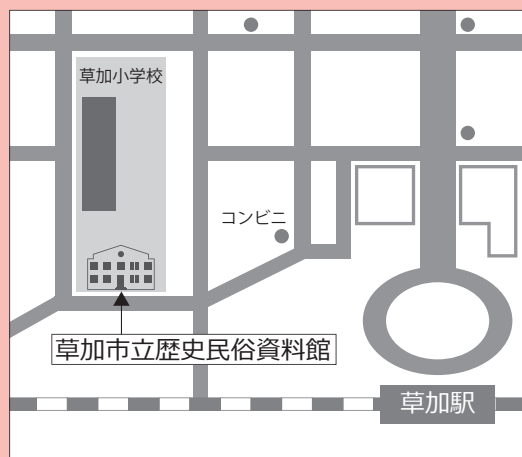
【入館料】 無料

〒340-0014

埼玉県草加市住吉一丁目11番29号

TEL:048-922-0402 FAX:048-922-1117

E-mail:sokarekimin@city.soka.saitama.jp



東武スカイツリーライン「草加駅」東口徒歩7分
駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

れきみんだより vol. 8

発行日：令和2年（2020）8月1日 編集・発行：草加市立歴史民俗資料館